

みんなが知りたい！ 教えて！消防団のこと



Q そもそも消防団って？

A 消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。

常勤の消防職員が勤務する消防署と違って、火災や大規模災害時に自宅や職場から現場へ駆け付け、その地域での経験を生かした消火活動や救助活動を行う非常勤特別職の地方公務員。消防防災のリーダーとして、地域に密着し、住民の安全と安心を守るという重要な役割を担っています。

Q どんな活動してるの？

A 主な活動は、災害対応・訓練・広報活動です。



火災現場での消火をはじめ、地震や風水害などの大規模災害発生時に救助・救出、警戒巡視、避難誘導、火災防御などを行います。



消火活動や救助・救出の基本的な操作の習得のため、訓練を行っています。消防用機械器具の操作の基本技術を競うポンプ操作大会が2年に1回開催されます。



火災予防週間や年末に町内を巡回するなどして防火に関する啓発活動を行っています。また、救命講習会での講師を務めるなど、防災意識の向上を図っています。

Q 誰でも入団できるの？

A 入団には条件があります。仕事や家庭との両立も可能です。

18歳以上の健康な人で、町内に居住か勤務している人が入団できます。

出動は平日の日中の可能性がありますが、訓練は、主に土日や夜間に行っています。団員の多くが仕事や家庭を持ちながらも、自分たちのできる範囲でできることから活動しています。

Q 報酬はあるの？

A 年額報酬と、災害や訓練に出動した場合は出動報酬が支給されます。

- ・年額報酬 36,500円
- ・災害出動報酬 日額 4千円～8千円
- ・訓練・警戒出動報酬 日額 3,500円
- 各種表彰、公務災害補償、退職報償金などの制度もあります。

POINT 松前町消防団の構成

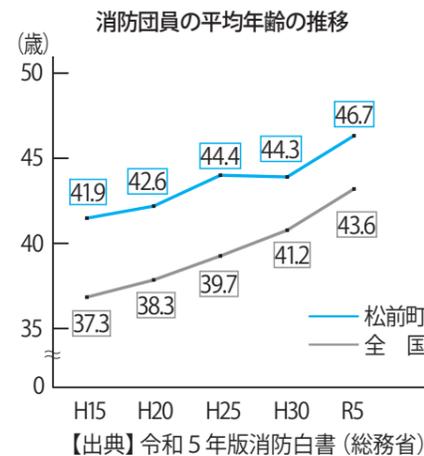
| | | | |
|--|----------------------------|------|--------------|
| 本 団 (女 性 消 防 団 員 含 む) | 松 前 方 面 隊 | 第1分団 | 南黒田、北黒田 |
| | | 第2分団 | 宗意原、新立 |
| | | 第3分団 | 本村、筒井 |
| | 北 伊 予 方 面 隊 | 第4分団 | 徳丸、中川原、出作 |
| | | 第5分団 | 神崎、鶴吉 |
| | | 第6分団 | 横田、大溝、永田、東古泉 |
| | 岡 田 方 面 隊 | 第7分団 | 大間、上高柳、恵久美 |
| | | 第8分団 | 昌農内、西古泉 |
| | | 第9分団 | 西高柳、北川原、塩屋 |

特集 我ら地域を守る消防団 ヒーロー



火災や大規模災害が発生したとき、現場に駆け付け、消火活動や救助活動などを行う消防団。地域を知っているからこそ、いざというときに地域住民の命や財産を守ることができます。あなたも消防団で、誰かのために活動してみませんか。

— 火災予防広報は女性消防団員の任務です —



消防団の現状

松前町消防団の定員は310人。平成15年4月1日時点では定員ちようどの310人(うち女性10人)在職していましたが、年々少しずつ減少し、令和5年4月1日時点の在職者は298人(うち女性7人)です。

近年の消防団は、退団者が増える一方、入団者が減少傾向にあるほか、平均年齢も上昇しています。本町でも平成15年には41・9歳でしたが、令和5年は46・7歳と年々上昇しています(左のグラフ参照)。

また、女性の消防団員数については、全国的には増加しているものの、本町では定員12人を大きく下回っています。このまま団員数が減り、高齢化が進むと災害時の対応に支障を来す恐れがあります。

「女性ならではの強みを災害時に生かす」



なかがわくみこ 中川久美子 班长
=中川原=
(本団女性消防団員)

―活動内容は？
 平常時は、広報活動や救命講習の講師が主な活動です。広報活動については、年末と2カ月に1回、消防署員と一緒に

―消防団に入ったきっかけは？

すでに入団していた母に誘われて、平成30年に消防団に入りました。令和5年4月1日からは、女性消防団員をまとめる班長を務めています。私は、母が入団していたので女性消防団員の存在を知っていましたが、知らない人もたくさんいるのではないのでしょうか。これからは、女性消防団員の活動を皆さんに知っていただきたいと思っています。

―活動内容は？
 火災予防の広報活動をしています。救命講習については、消防署で講習を受けて「応急手当指導員」の認定を受け、各地区などで開催される救命講習会で、AEDの使い方などの救命処置の指導を行います。昨年は、初めて町の文化祭で救命講習を行いました。子どもから大人まで、たくさんの人に参加していただけたことがとてもうれしかったですね。

―やりがいとは？
 地域の人たちとつながることができたことですね。それと、制服を着ていると子どもが喜んでくれることです。図書館で災害関係の本を借りてくれるくらい興味を持ってくれます。子どもの反応が活動を続ける励みになりますね。消防団の活動は、働いていても、子どもがいても、誰でもできます。皆さん、私たちと一緒に活動してみませんか。

―活動内容は？
 火災予防の広報活動をしています。救命講習については、消防署で講習を受けて「応急手当指導員」の認定を受け、各地区などで開催される救命講習会で、AEDの使い方などの救命処置の指導を行います。昨年は、初めて町の文化祭で救命講習を行いました。子どもから大人まで、たくさんの人に参加していただけたことがとてもうれしかったですね。

―やりがいとは？
 地域の人たちとつながることができたことですね。それと、制服を着ていると子どもが喜んでくれることです。図書館で災害関係の本を借りてくれるくらい興味を持ってくれます。子どもの反応が活動を続ける励みになりますね。消防団の活動は、働いていても、子どもがいても、誰でもできます。皆さん、私たちと一緒に活動してみませんか。

「地域で最も頼りになる存在に―」



かむらしげお 嘉村重雄 団長
=塩屋=
(本団)

―消防団に入ったきっかけは？

私は、昭和62年に地域の人に誘われて消防団に入りました。当時の若い人たちは、ほとんどの人が消防団に入っていましたね。元々、誰かの手助けをしたい、地域に貢献したいという思いがあったので、災害時は家族を家に残して出動したこともあります。自分が現場に行かないと始まらないという使命感は、団長になってより一層強まりました。

―出動時、最も大切にしていることは？

地域の皆さん、そしてもちろん団員の命を守ることです。

―目指す消防団像は？

「地域密着型」の消防団です。すでに地域の中心となって活動している分団もありますが、「消防団」の枠にとらわれてほ

しくないと思っています。地域のさまざまな行事に参加して、地域の人たちと顔見知りになる。それが、災害に強いまちをつくるためにも重要です。そんなまちを地域の皆さんとつくっていきたくと思っています。消防団内でのチームワークや団結力を高めることも欠かせませんが、地域の皆さんに話し掛けてもらいやすい雰囲気をつくるため、皆さんと交流を図り、困ったときはいつでも頼りにしてもらえる存在でありたいと思っています。

家族のため、地域のため―。
 あなたも必ず誰かのヒーローになれるはず。
 このまちには、あなたの力が必要です。
 ぜひ私たちと一緒に活動しましょう。
 このまちのヒーローは「あなた」だ！

入団を希望する場合は、松前消防署
 (☎ 984-3404)へご連絡を。



かとうひろたか 加藤宏崇さん
=中川原=
(第4分団)

消防団に入ってまだ1年目。今まで私は、地域の人たちに守られてきたので、次は自分がみんなを守る番だと思い入団を決めました。子どもにも活動している姿を見せたいと思っています。これから「新しいまさき」を支える一員として地域に貢献したいです。



おびすだようすけ 戒田洋祐さん
=筒井=
(第3分団)

消防団に入って4年目です。地域のために、自分ができたいと思入団を決めました。仕事をしながらでも消防団の活動は負担ではありません。地域のいろいろな世代の人と交流できて、地域とつながっていると実感できるところにやりがいを感じています。